

摂食・嚥下障害者事例（症例）報告の記載について

○事例（症例）報告は、以下の記載項目順にまとめてください。

様式.1 は、介入に至るまでの経過、様式.2 は、栄養介入にあたり栄養アセスメントに基づいて栄養診断した経緯を叙述式記録(SOAP 記載)にのっとして記載します。様式.3 は栄養介入の具体的な方法（展開）とその後の経過、総合評価を記載してください。

I. 対象者の基本的情報（病歴やプロフィールなど）および、栄養介入に至るまでの経過（様式.1）

1. 対象者情報

栄養介入に必要な対象者の情報を以下に示す。栄養介入の根拠として必要な情報（データ）を記載する。

プロフィール：年齢、性別、職業、人種、身体障害、喫煙習慣、家族、生活背景、社会的背景など

「個人履歴」：傷病名（病歴；主訴、現病歴、既往歴、家族歴など）、医療処置、治療

「身体計測」：身長、体重、下肥周囲長, BMI など

「生化学データ・臨床検査」：血液検査データ、基礎代謝測定、VF 検査など

「栄養に焦点をあてた身体所見」：筋肉や皮下脂肪の状況、皮膚の状況（ツルゴール反応など）

「食物/栄養関連の履歴」：食物や栄養摂取、食物に関連する知識・信念、食物生活状況

2. 栄養介入までの経過

対象者（患者）の栄養介入（紹介含む）に至る経過を、栄養介入が必要と判断された理由を含め経時的に記載する。（※多職種からの紹介状況も含める）

3. 栄養スクリーニング

栄養スクリーニング方法とその結果を記載する。また、多職種から紹介であれば紹介理由

II. 栄養介入(栄養アセスメントと栄養診断、栄養介入計画)を叙述式記録(SOAP)方式に整理し、記載する) (様式.2)

1. SOAP の書き方

栄養介入やその方針等について、栄養アセスメントの根拠データ（「O」と「S」）、栄養アセスメント、栄養診断、栄養計画を SOAP にわけて記載する。

NI-1.5 エネルギー摂取量過剰・・・（栄養診断名）

S: (Subjective data:主観的データ)

O: (objective data:客観的データ)

A: (assessment:栄養アセスメント)

+ 栄養診断 (PES 報告) の記入

P: (plan:栄養介入計画)

Mx) モニタリング計画:臨床検査データ、摂食状況、経口摂取量、電解質、体重の評価など
栄養診断の PES 報告で、S に記載した内容

Rx) 栄養治療計画:適正エネルギーおよび栄養素量、水分、食事・食形態コードなど

Ex) 栄養教育計画:嚥下障害対象者や家族（調理担当者）への嚥下調整食の意義や調理方法、対応方法などの指導方針（内容）

* 栄養アセスメント

栄養アセスメントは、「食物/栄養関連の履歴」、「身体計測」、「生化学データ」、「栄養に焦点をあてた身体所見」、「個人履歴」の5項目から問題点を抽出し、相互関係を整理し考察する。

抽出した栄養問題に関連する根拠データは、「S」、「O」に記載する。

* 栄養診断

栄養アセスメントにより問題点を抽出して評価・判定し、栄養問題を絞り込み栄養診断する。

栄養診断は、NI「摂取量」、NC「臨床栄養」、NB「行動と生活環境」の3つの項目からなる70種類の国際標準化された栄養診断の用語で、「栄養管理プロセス（日本栄養士会監修、第一出版発行）」の栄養診断コードを参考にして用語を選択する。

解決すべき栄養問題は簡潔に1つに絞り込むとよいが複数ある場合（2～3つ）には、もっとも緊急性を要するものから絞り込む。

<記載例>

P (Problem or Nutrition Diagnosis Label : 栄養診断) ➡NI-3.1 水分摂取不足

E (Etiology : 原因や要因) ➡嚥下障害

S (Sign/Symptoms : 根拠・兆候) ➡食事中の噎せ込み、皮膚ツルゴール (+)

<PES 記載>

「食事中のむせこみ、皮膚ツルゴールがみられ脱水傾向がある (S)

ことから嚥下障害 (E) が原因となった水分摂取不足 (P) と考える。

III. 栄養介入とその経過 (様式. 3)

・栄養介入の具体的な内容と、栄養介入の経過と総合評価

栄養介入は、栄養診断とその要因（原因）に基づいてすすめられる。栄養改善の長期目標、短期目標を掲げて、栄養介入計画にそって「食物・栄養素の提供」、「栄養教育」、「栄養カウンセリング」、「栄養ケアの調整」の方策で実施される。栄養介入の経過と総合評価を記入する。

VI. 記載上の注意点

- ・ A 4 用紙 3 枚 (片面印刷) にまとめる。
- ・ 本文の基本フォントは、MS 明朝体 (英数字記号は半角を使用し、MS 明朝体または Times New Roman)、文字の大きさは、10.5 ポイントとする。
- ・ 句読点は、日本文は句読点 (、) マル (。)、英文は、コンマ (,) とピリオド (.) を使用する。
- ・ 検査値や計測値には、必ず単位を入れる。また、記載する場合は、数字と単位の間 (単位同士の間) に半角スペースを入れる。
- ・ データは、個人や施設名が特定できないように配慮して記載する。